

2007年8月17日

投資家の皆様へ

日興アセットマネジメント株式会社
インベストメントストラテジーグループ
ジョン・ヴェイル

軟調な株式市場と円相場の急反発について

世界の株式市場には、依然として調整色が見られます。弊社では、この背景に、景気や企業収益についての見通しの引き下げを懸念した面が無いとは言い切れないものの、外部から調達した資金を株式に投じているような、一部の投資家の事情を反映している面が強いと考えています。つまり、ヘッジファンドや他の一部の投資家は、米国のサブプライム（信用力の低い借り手向け）ローン問題への懸念を背景に、顧客からの解約やリスク削減要請に直面しており、これに伴って株式の売却を行なわざるを得ない状況にあるとみられます。

弊社では、ヘッジファンドや他の投資家のさらなる損失が明るみに出る可能性があるともみており、これらによる持ち高の調整に伴って、普段見られないような動きを今後も市場が示す可能性はあると考えています。このため、サブプライムローン問題には引き続き注意が必要でしょう。しかし、世界経済全体としての成長持続を前提にすれば、中長期の株式投資を行なう上での景気・経済面での理由が脅かされている訳ではないと言えるでしょう。住宅市場の調整に見舞われている米国の経済成長が減速しているものの、現時点では、世界の他の地域での力強い成長によって、米国の減速に伴う影響は補われているとみられます。また、先週以降、主要国の中央銀行が流動性の供給に努めているという事実は、信用危機の影響が経済に広く波及するのを防ぐことでしょう。今は、世界経済見通しのリスクを改めて吟味する時期にあるようですが、前述のような経済状況が今後も維持されるという結論を得られれば、世界の株式市場はやがて落ち着きを取り戻すものと期待されます。

世界の金融市場に見られる今回のような急調整は、弊社の予想を上回るものです。一連の相場の動揺に続いて加速した円キャリートレード（円借り取引）の巻き戻しもまた、同様です。円の反発によって、投機的な行動をとってきた投資家のなかに、損失を被るケースが出てくるかもしれません。しかし、日本経済の現状からは、円の急上昇の継続は考え難い状況です。むしろ、円ベースの投資家による着実な海外投資によって経常黒字が相殺され、急速な円高は回避されると考えられます。

以上

John F. Vail